

# 急傾斜地崩壊防止対策により 地域災害拠点病院機能等への被害を防止

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要 要: 5か年加速化対策により、浜松医科大学内の急傾斜地崩壊防止対策を実施。令和6年台風10号の大雨にて浜松市は72時間降水量476mmを観測したが、対策により法面崩壊等の発生を防止し病院機能等を維持した。  
対策名: 93 国立大学施設等の老朽化・防災機能強化対策<5か年加速化対策>【文部科学省】

- 実施主体: 国立大学法人浜松医科大学
- 実施場所: 静岡県浜松市
- 事業概要: 浜松医科大学は教育・研究機関としての役割を持つと同時に、敷地内の附属病院は地域災害拠点病院に指定されている。大学敷地内にある急傾斜地が土砂災害警戒区域に指定されているため、急傾斜地崩壊防止対策工事(斜面安定工法)を実施した。
- 事業費: 約2.9億円(令和3~5年度)  
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)約2.8億円)
- 効果:  
令和6年台風10号※では、記録的な大雨(平年の8月月間降水量の4倍以上となる総降水量589.5mm、観測史上1位となる72時間降水量476mm)を観測した。豪雨により浜松市内では15件の土砂災害が発生したが、浜松医科大学では5か年加速化対策等により急傾斜地崩壊防止対策工事を実施したことで法面崩壊等の発生を防止し、教育・研究活動や病院機能等を災害時も維持した。

※浜松市の状況: 総降水量 589.5mm(期間8月26日~9月1日)

平年の8月月間降水量の4倍以上  
72時間降水量 476.0mm 観測史上1位  
市内土砂災害件数 15件

